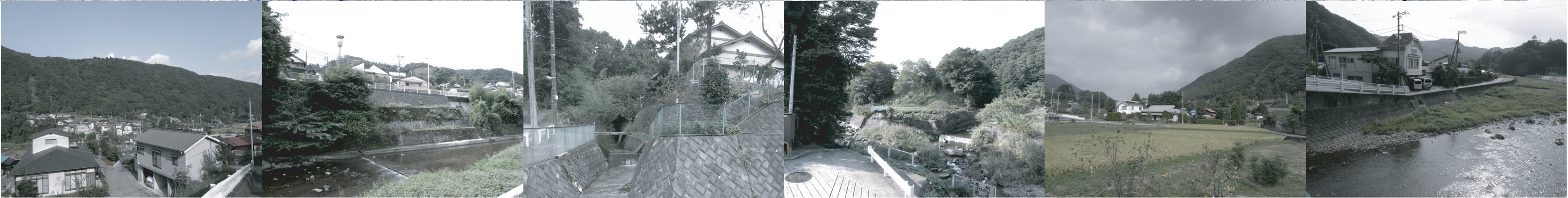




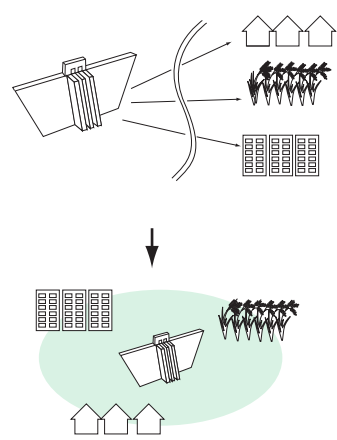
## 街を育む小さなダム群

この計画ではその場所を守り、育むための小さなダム群を提案する。  
このダム群の基本的な機能は治水にあり、それははるか下流の街のためではなく、その場所（ここでは清川村）が抱える水害危険区域の浸水を防ぐためのものである。  
またダムの機能を細小分散化することで、ダムはヒューマンスケールの構造物になり、そこに小さな公共機能（図書館や寄合所）を加えることで、村のスケールにあった生活の「場」としての河川を取り戻す。



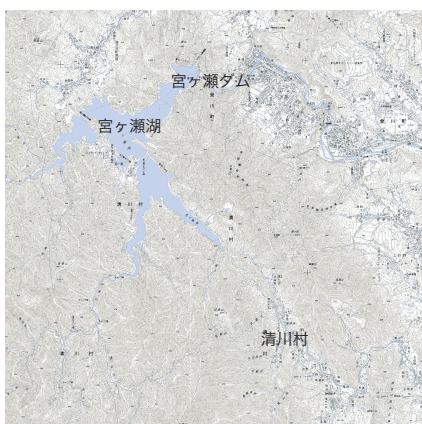
### 01 問題設定

従来、ダムは治水であれ利水であれ、ある場所を水に沈めることで遠くはなれた都市が利益を享受するためにつくられる土木構造物であった。そのためダムは人のスケールを大きく超えて巨大化し、風景に対して過す影響を与えている。



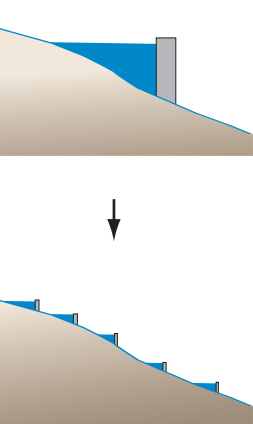
### 02 敷地

敷地である神奈川県唯一の村である清川村は、日本一観光客が多い宮ヶ瀬ダムがありその周辺は湧水公園などが整備され財政的には潤っているものの、村の中心地である塚ヶ谷を流れる小船川では氾濫の危険がある場所が村内にあり、宮ヶ瀬ダムの治水機能の恩恵を受けていない。また水害の危険性がない部分の街は堤壁や堰岸によって安全性はあるものの、生活が河川と切り離されている。



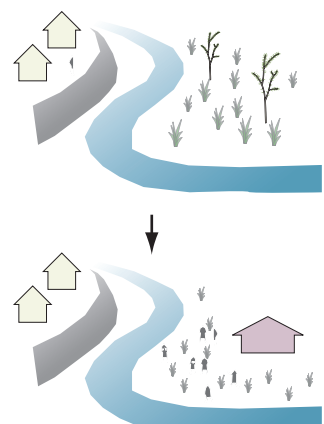
### 03 治水

この計画では村の治水機能を満たすために小船川に9つの小さなダムを計画する。それぞれのダムは穴あきダムの形式をとり、増水時はそれぞれが少量の水をためる事で水害危険区域を守り、増水時以外は水を溜めず元の河の流れを変えず、流域の生態系を保存する。



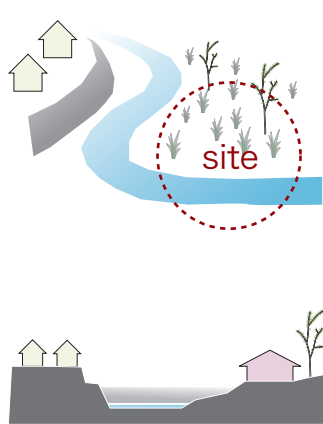
### 04 利用

清川村の多くの公共機能や住居が存在する右岸は堤岸整備や擁壁によって生活が河川と切り離されている。この計画では従来の水害対策のように水と生活を切り離す事によって治水をなすのではなく、ヒューマンスケールなダムとともに地域住民のための小さな公共施設を水辺に計画し、また数年に1度起こるような増水以外では浸水しない部分は浸水公園とすることで、村の中心としての河川を取り戻す。



### 05 配置

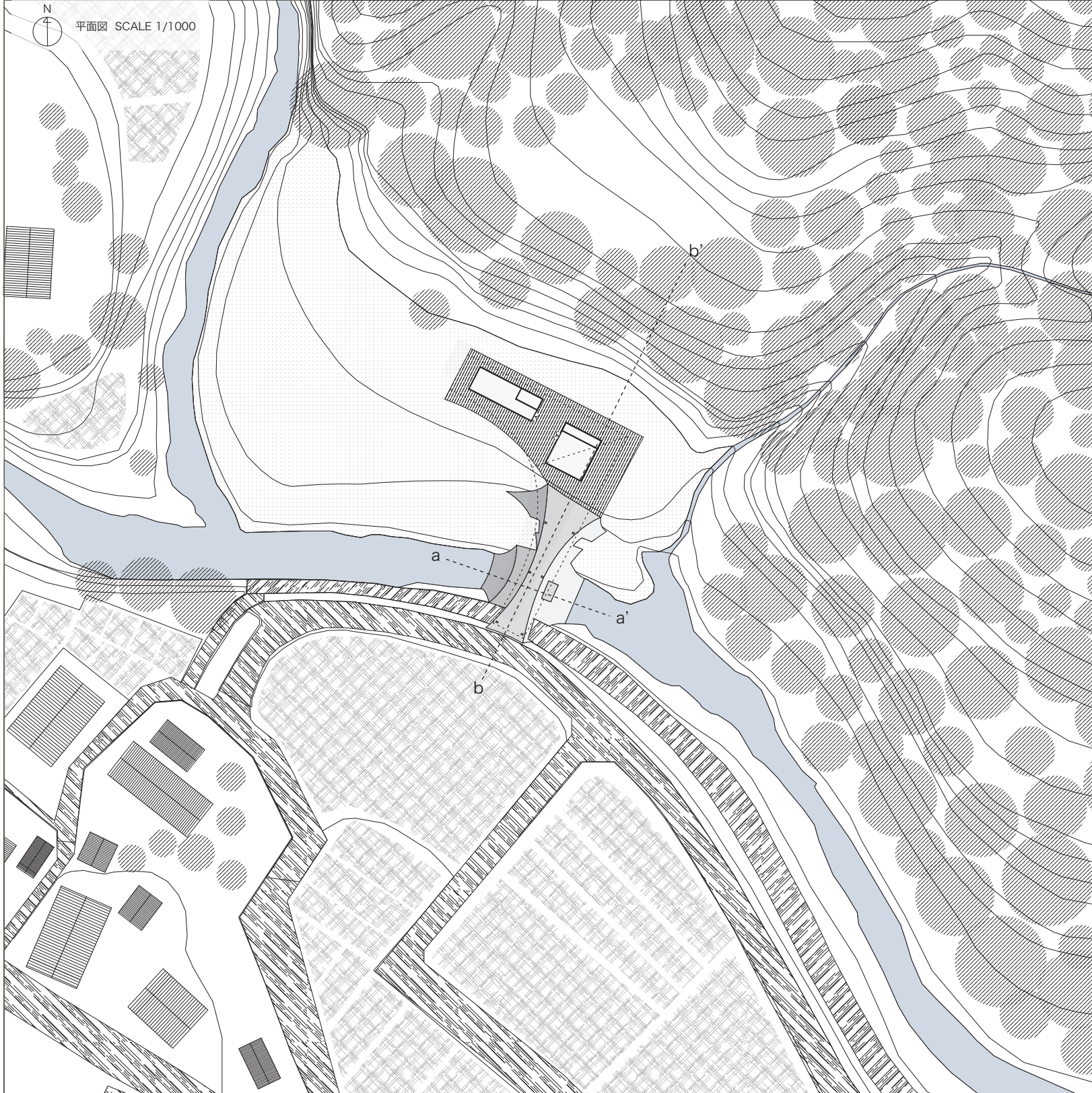
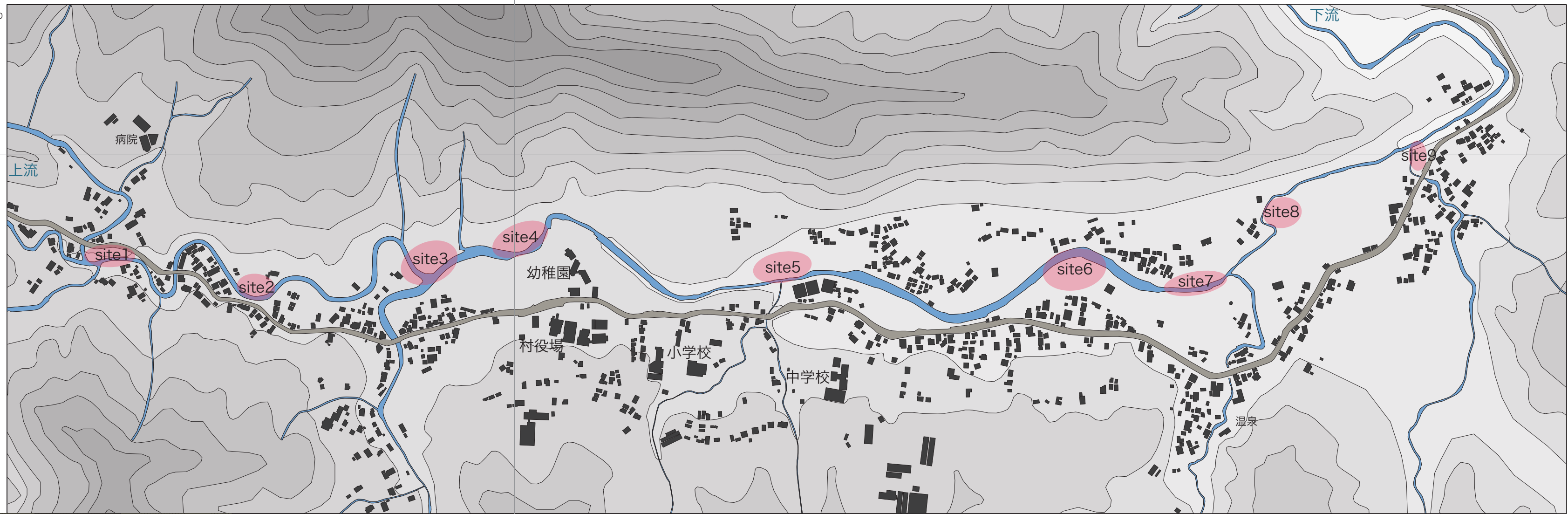
それぞれのダムの配置は地形と現在の用途によって決められる。河川が湾曲した部分の下流にダムを配置することで、湾曲する事によって生まれた勾配の緩やかな部分を遊水池のように利用でき、またその部分は住宅や農業利用がもずかしいため現在荒れ地になっている部分が多く、そういった部分に配置する事で土地の有効利用にもなる。



### 06 機能

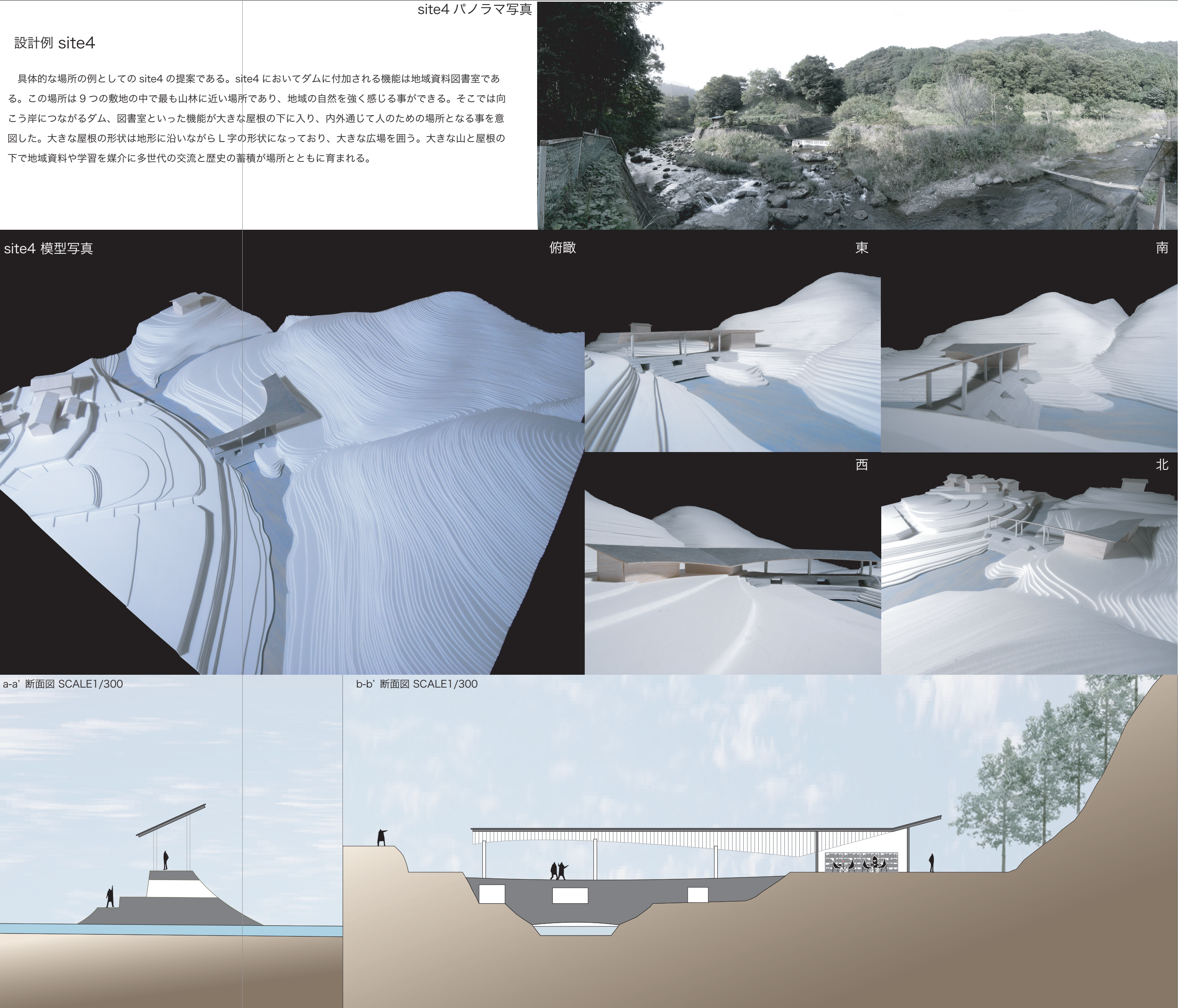
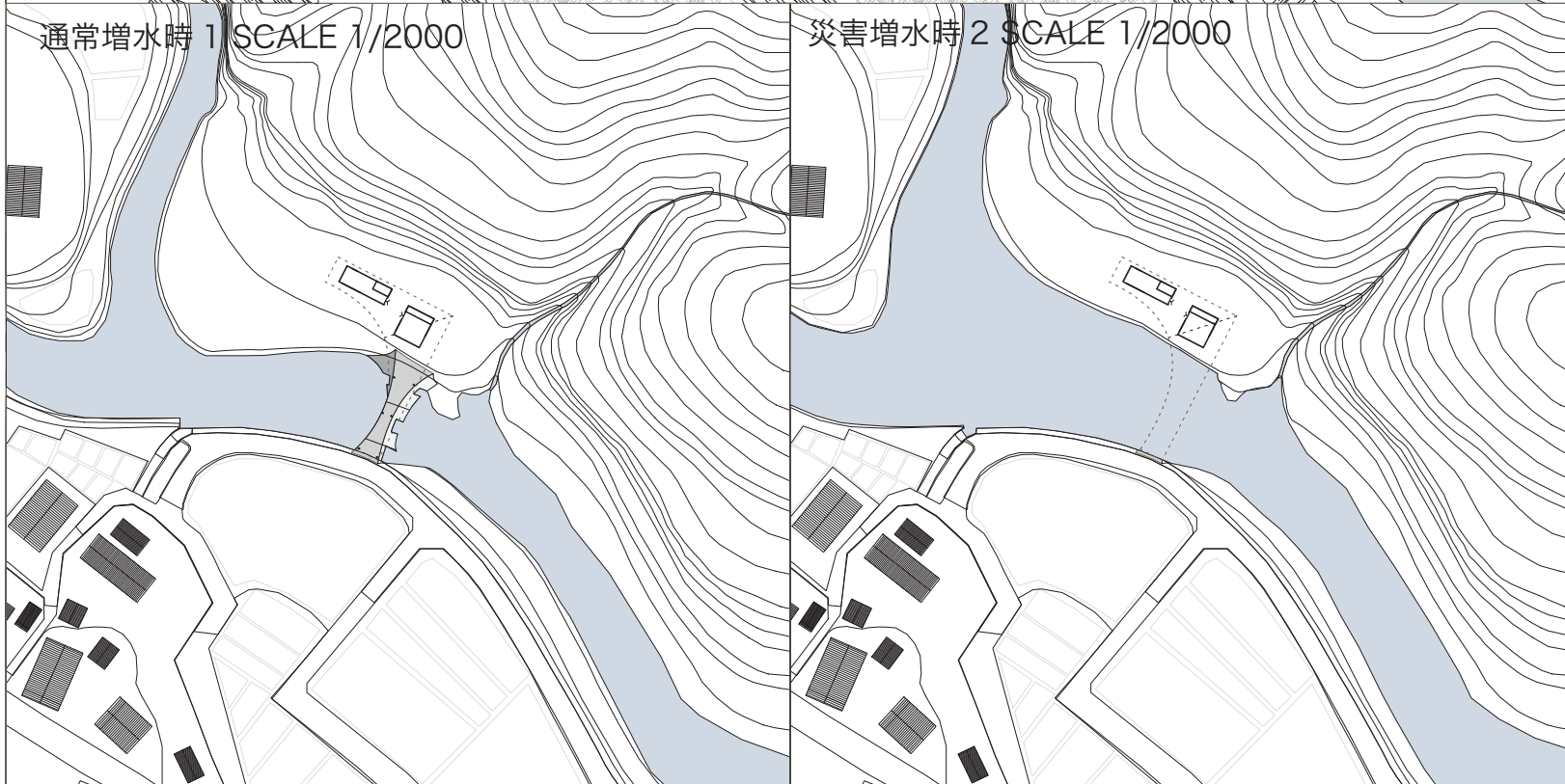
ダムの治水に追加される機能は村が持っている産業である農業（稲作、お茶）や温泉または既存の公共施設や住宅と関係しながら、それぞれが特徴をもった小さな村の寄合所として計画され、河川や山の風景と共に街を特徴づける場所となっていく。

|                                               |                                              |                                                 |
|-----------------------------------------------|----------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| site1<br>デイサービス<br>目的<br>高齢化が進む村で高齢者が暮らし続けるため | site2<br>医療書図書館<br>目的<br>住民の健康に対するケアと情報交換    | site3<br>地域資料図書館<br>目的<br>地域の情報の保存と世代間交流        |
| site4<br>児童図書館<br>目的<br>学校、家以外の子供の居場所         | site5<br>共同倉庫、休憩所<br>目的<br>農業従事者の農機具の共有と情報交換 | site6<br>共同キッチン<br>目的<br>収穫された農作物を楽しむと特産品の開発を行う |
| site7<br>お茶室<br>目的<br>栽培したお茶を楽しむ場所            | site8<br>温泉<br>目的<br>村の源泉の利用した住民の憩いの場        | site9<br>共同木工所<br>目的<br>山林を守るための間伐材を利用した住民の創作の場 |



通常増水時 1 SCALE 1/2000

災害増水時 2 SCALE 1/2000



設計例 site4

具体的な場所の例としての site4 の提案である。site4 においてダムに付加される機能は地域資料図書館である。この場所は9つの敷地の中でも山林に近い場所であり、地域の自然を強く感じる事ができる。そこでは向こう岸につながるダム、図書館といった機能が大きな屋根の下に入り、内外通じて人のための場所となる事を意図した。大きな屋根の形状は地形に沿いながらし字の形状になっており、大きな広場を囲う。大きな山と屋根の下で地域資料や学習を媒介に多世代の交流と歴史の蓄積が場所とともに育まれる。

